

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 8～13
- ・演習・実習科目関連締切等
社会福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 35～37
精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 38～40

2022年4月以降の変更・留意点【再掲含む】

- 対面での学習相談につきまして、今後は、水曜日を除く、月・火・木・金にて申込を受け付けます。
- 今年度の主な変更点については『試験・スクーリング情報ブック2022』p. 30～33に掲載しております。必ずご確認ください。

【主な変更点】

- ・科目修了試験の結果通知は、5月の科目修了試験より郵送は行わず、各自でWeb履修状況表をご確認いただくことといたします。

【重要】昨今の日本郵便の郵便事情について

2021年10月より、日本郵便（郵便局）の普通扱いの郵送物サービスが土曜日配達休止・お届け日数の繰り下げとなっております。この影響により、普通扱いの郵便物の到着の遅延（3～7日）が確認されています。各種提出物につきまして、ご提出の際はご注意ください。締切日まで余裕をもってのご提出にご協力ください（p. 48も参照）。

新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ

5/11現在、5月以降の会場スクーリングの開講予定は本冊子4部、本学通信教育部ホームページ等の「新型コロナウイルス感染防止に伴う各種対応について（第19報）」をご参照ください。ただし、今後変更の可能性がございますので、最新情報をホームページ (<https://www.tfu.ac.jp/tushin/>)にてご確認ください。

◆対面での学習相談および自習室の使用について

現在、学習相談のみ申込を受け付けております。自習室再開の際は下記にしたがってお申し込みください。

- 1) 平日（水曜日のぞく）のみ利用可能となっております。日付は第2希望までご記入ください。
- 2) 「利用申込書」を提出し、予約が必要です。
- 3) 本学通信教育部HPからダウンロードした「利用申込書」を利用希望日の1週間前までにメール添付で提出してください（提出先uc@tfu.ac.jp）。
- 4) 郵送で提出する場合は、巻末様式を使用し、利用希望日の1週間前までにお申し込みください（返送先住所を明記し定形封筒に84円切手を貼付した返信用封筒を同封）。
- 5) 当日は学生証の提示が必須となります。
- 6) 学習相談は平日の下記①～⑤となり1日一人1回の利用となります。
午前（①10：00～10：30、②11：00～11：30）
午後（③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30）
- 7) 学習相談は講義に準ずるため、録音・録画はご遠慮ください。
- 8) 自習室の利用可能時間は、平日（水曜日のぞく）の下記①②となり1日一人1回の利用となります（入室制限：1回4名）。なお、スクーリ

ング開講日につきましては感染防止の観点から閉鎖させていただき、使用できませんのでご注意ください。

①10：00～12：00（120分） ②14：00～16：00（120分）

【注意事項】

- 1) 学習相談または自習室の使用を目的とした入構に限ります。
- 2) 1回の学習相談は最長30分以内、1回の自習室使用は最長120分以内となります。
- 3) 入館は開始時間5分前からになります。開始時間に遅れないようにお出てください。
- 4) 各終了時間には退室していただきます。
- 5) 入退館時は通信教育部職員が受付し、誘導いたします。
- 6) 入構時には、ご持参のマスク（不織布）着用および出入口での検温と手指消毒、チェックリストの記入が必要です。
- 7) 発熱のある方（体温37.5度以上）、体調不良の方は、入構することができません。
- 8) 疾患をお持ちの方やご高齢の方など感染により重症化しやすい方は、メールや電話などでご相談いただき、自習室のご使用は自粛をお願いいたします。

◆事務室各対応時間

〈電 話〉 9：00～17：00（水曜日を除く）

〈メール〉 9：00～17：00

◆ご協力をお願い

- ・レポート、各種証明書の申込等は、郵送での提出にご協力ください。
- ・制限下での入構が可能となりましたが、引き続き、電話・メール・郵送

でのご質問・ご相談にご協力ください。

注) 図書館（国見キャンパス）等については、本学図書館ホームページ
（<https://www.tfu.ac.jp/libr/>）でご確認ください。

これから「学びの歩」を 進める皆さんへ

ご入学、おめでとうございます！ 心よりお祝い申し上げます。

もっと学びたくなる

「学べば学ぶほど、何も知らないということが分かるようになる。何も知らないと分かるようになるほど、もっと学びたくなる。」

これは、理論物理学者アルベルト・アインシュタイン（Albert Einstein：1879年3月14日－1955年4月18日）の言葉です。深い言葉ですね。私たちは全知全能ではありませんので、世の中のすべてを知り、理解しているわけではありません。その意味で、アインシュタインの言葉は説得力をもって私たちの胸に響いてきます。皆さんは、どのように受け止めましたか？

皆さんなりの動機をもって、「もっと学びたく」て通信教育部の門を叩いたのではないのでしょうか。

学びの特徴

さて、皆さんが学ぶ東北福祉大学通信教育部は、社会福祉学科と福祉心理学科（大学院は社会福祉学専攻と福祉心理学専攻）から構成されています。いずれも根底にある学びは、「福祉学」です。福祉学は、すべての人の「ウェル・ビーイング」を目指して、一人ひとりが生きがいを持ち、自由な選択によって豊かな生活ができる社会のあり方を研究します。このような学びを分母として、2つの学科及び専攻の専門領域を深めていくこと

になります。

ところで、福祉学という分野は「人間」（人間の営みである「くらし」、あるいは「いのち」）そのものを対象としますから、複合性が求められています。敷衍すれば、福祉学を学ぶことは究極的には人間理解であり、そのために哲学、心理学、そして生活や地域を分析する社会学などの学際的な学びが重要なのです。ぜひ、皆さんには幅広く学んでいただきたいと思います。

しかし、学際的に学ぶといっても、さまざまな分野の知識量を増やすだけを意味しているわけではありません。人間のニーズ（必要）は多種多様であり、たとえ同じニーズであってもその状況に応じて、一つとして同じ対応はありえません。つまり、正解が一つとは限りらないのです。このような人間そのもの（人間理解）を対象とする福祉学だからこそ、「Why、What」の視点（問いかけ）が一層求められてくるのではないのでしょうか。「学んで」「問う」という作業が重要なのであり、これこそが「学問」の神髄ともいえます。

通信教育での学びの方法

通信教育部での「学び」は、大きく区分すると「レポート作成による学習」と「スクーリングによる学習」から構成されています。これらの方法は、次のような構造を有しています。

まず、「レポート作成による学習」についてです。レポート作成といっても、すぐに取り掛かることができるわけではありません。まず、科目担当教員が指定したテキストなどを読むことから始まります。重要なことは、指定されたテキスト以外のいろいろな本（文献）からも学ぶことです。制約のある時間の中で、できるだけ多読することによって、多様な価値観（問題をみる視点）に触れることができるはずです。

次に、テキストを含めた多様な文献から得た知識の集積を、統合、整理しながらレポート作成へ繋げることになります。レポート課題の提示者である教員へ、皆さんなりのまとめ方で文章表現をして提出することに心がけてください。ここで注意が必要なことは、「自分なりのまとめ方」です。決してテキスト（文献など）をコピー＆ペーストしないでください。自分なりのまとめ方（文章表現）も学びの一つなのです。

そして、「スクーリング」によって他者と学びます。ここでは、職業や年齢などさまざまな属性はもちろんのこと、生き方や考え方などすべてにおいて違いのある他者と共に学ぶことになります。「スクーリング」に参加することによって、多様な視点に触れるとともに、通信教育での学びは決してひとり・孤独ではないことに気づくことができます。このような場において交流し共に学びあうことで、学びへのモチベーションも高まることでしょう。

これらが学びの構造になりますが、まとめると、『テキスト・文献による知識の集積』（他者からの学び）～『知識の集積を統合・整理した上でのレポート作成と提出』（自己の学びと他者への学び<伝達>）～『スクーリングにより共に学ぶ』（他者との学び）に要約されます。

学びの先に

皆さんが通信教育部で学ばれようとした動機は、教養のため、資格（国家試験受験資格など）を取得してキャリアアップのためなどさまざまであると思います。しかし、学びを進めていくと、学びの基底にある「福祉学」は、私たちの生活そのものに関わる分野であることを実感するはずです。

つまり、すべての人の「ウェル・ビーイング」を目指して……学びを進めれば進めるほど、自らの生活のあり方を再考することにもなるのです。そして、このような学びは、自らを変えていく動力となる可能性をもちま

す。それがdynamismな側面をもつ「福祉学」を学ぶ奥深さでもありません。本学通信教育部で学び、「福祉のこころ」をもった皆さんが、地域社会での暮らしを豊かにしたいと考え、行動・実践することが重要であると思います。アインシュタインが述べた「……もっと学びたくなる」という動機によって学んだことを行動・実践に移すことは、本学の建学の精神(行学一如)にも通ずるものです。

起業家ジム・ローン (Jim Rohn : 1930年9月17日 - 2009年12月5日) は次のように述べていました。「学びを知識に変えるのではなく、学びを行動へつなげよう。」と。

通信教育部 (大学院を含む) で学ばれる皆さんにおいて、それぞれの目標が達成されますことを祈念しております。

